

学校教育目標		重点目標(中・長期的目標)
生きる力の育成と地域を担う人間づくり		
①共に生きる力を養う(自己理解・他者理解を含め、他者と共存していく力を高める) ②夢をかなえる力を鍛える(問題解決能力とともに、社会性及び人格を向上させる) ③地域と関わる力を育む(地域への関心を高め、理解し、積極的に関わる力を育成する)		①地域からの信頼を高め、地域を担う人材を育成する ②人間としての在り方、生き方を深める教育を展開する
今年度の重点目標		
I 基本的な生活習慣の確立及び定着とともに、体験学習を通して自尊感情や規範意識を育成する II 計画的な進路指導を実践する IV いじめ・体罰のない、明るく安心な学校をつくる		III 地域に活動をアピールし、理解を得る V 授業改革の取組を実践する
総合評価	成果と課題	改善策と向上策
生活指導面での課題はあるものの、生徒の自律を促しながらの予防的な指導が粘り強く行われ、多くの生徒が落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送ることができた。また、自尊感情の育成、キャリア形成につながる様々な体験学習を計画的に実施することができた。授業改革の取組では、授業規律の確立・定着と併せて、生徒の探究的な学びにつながる授業内容や方法の工夫について、年間を通して全職員で研究と実践をすすめることができた。ホームページの刷新や学校説明会、フォーラム等における写真や動画の利用等、教育活動広報の工夫をすることができた。	教育活動や生徒の様子を積極的に発信したことで、地域や中学校の一定の理解を得ることができた。授業改革の取組では、全職員が生徒の探究的な学びにつながる授業改善の必要性を理解することができたが、授業の継続的実践のためにはさらなる研究が必要である。体験学習等を通して、生徒のキャリアを形成することと、進路意識を一層高めていくことも引き続き課題である。	生徒の探究的な学びにつながる授業の実践に向けた研究を、来年度も引き続き全職員で行う。併せて、生徒の社会性の育成向上に向けた取組、キャリア形成に向けた取組を一層充実させていきたい。

1 教育活動について

対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策と向上策
教育課程	現教育課程の点検	・コース別編成をはじめ、現教育課程が学校目標の達成につながる十分なものであるか点検することができたか。	・再編した教育課程が3年目をむかえたため、3年間のカリキュラムの有効性を検証し、生徒の実態も合わせた授業展開を検討した。	・点検結果から一部変更した教育課程について、その効果を次年度から検討していく必要がある。
	新しい教育課程の検討	・現教育課程の点検に基づき、学校の特色を生かした新たな教育課程の編成を検討することができたか。	・現教育課程の点検から、カリキュラムを一部変更した。	・学習成果と進路決定を併せて検証し、より有効な教育課程を検討する必要がある。また、今後はじまる通級指導や新学習指導要領を視野に入れた検討もはじめる時期である。
学習指導	学習環境の確立	・平成24年度導入されたカウント指導・遅刻カード指導を全職員で実施し、基本的な学習習慣と学習環境の確立に向けて努力できたか。 ・カウント指導・遅刻カード指導に関する意見を教師・生徒他から拾い上げ、制度の更なる改善をはかれたか。	・年度初め・長期休業明け・衣替え等にあわせて年5回の授業向上週間を行った。チームで指導にあたることで学習環境を整え、同時に授業公開期間として教員の授業力向上をはかった。 ・今後のカウント指導運用に向け、生活指導係、授業改善向上委員会、また職員会議等を通して議論・検討することができた。	・学習環境を確立するための指導のありかたについては、現在の職員や生徒にとって実効的で馴染みやすいかたちを、常に柔軟に模索していく必要がある。
	きめ細かな学習指導の実践	・習熟度別及びコース別授業編成を生かすことができたか。 ・全ての生徒に分かりやすい授業という観点で、授業及び学習環境のユニバーサルデザイン化に取り組むことができたか。 ・初任者の授業力の向上、生徒の能動的な取組及び教員同士の授業力の研鑽を目的として公開授業を行うことができたか。	・英語、数学において習熟度別授業を実施し、学力幅の大きい生徒たちに即した授業を展開することができた。 ・授業改善の観点から、わかりやすい授業やユニバーサルデザインへの取組を行った。 ・教員同士の公開授業を春秋それぞれで1週間ずつ実施した。また、生徒の探究的な学びを目指す公開研究授業を複数回実施した。こうした取組で、授業力の研鑽に役立てることができた。	・習熟度別授業内容をどのように評価に反映するか、それぞれの科で検討工夫がなされているが、今後も検討する必要がある。 ・なぜユニバーサルデザインの考え方が必要なのかについて、特別支援教育や生徒の発達の観点からの理解が必要である。研修会や研究会などのほか、他校の取組や実践例などを職員に提案する機会をつくっていく。 ・教員同士の公開授業週間を設定して見学し合うことは互いに刺激になる。また、研究授業を広く公開し、授業後に研究会を行うことも授業力の向上に役立つ。来年度も積極的に設定していきたい。
	総合的な学習の時間の実施	・人を大切にできる教育ができたか。 ・それぞれのコースの内容にそった探究活動ができたか。	・出前福祉講座、就業体験、マナー講座、企業見学等を通して、地域社会とそこに生活する人々について考えることができ、進路を選択するきっかけとなった。	・地域を担う人材を育成する観点から、キャリア教育の一層の充実に向け、地域の協力を得ながら、進路意識を高め実際の進路実現に結びつく活動を引き続き計画していきたい。

特別活動	生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員に自治意識を涵養し、生徒自身がリーダーシップをとって全校を牽引していくよう指導することができたか。 生徒会役員以外の生徒には、一人一人が生徒会の構成員である自覚を持ち、委員会活動や行事などに進んで参加する姿勢を身につけることができるよう指導できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 役員に対しては、常にリーダーとしての在り方を意識させ、指導することができた。役員以外の生徒には、生徒会活動へ自主的に参加する姿勢を身につけさせることは難しかったが、あきらめず指導することはできた。 	<ul style="list-style-type: none"> 年によって役員生徒の性質も違うが、今年度の役員は、比較的小おとなしく受け身の姿勢が強かったため、自主的に考え、行動するという形を作ることが難しかった。自治活動を指導するという基本を忘れず、教員の指示に従って活動するという段階から、少しずつでも自ら考え活動する力をつけるということを中心したい。『例年通りの形を整える』ことを第一とせず、『今の生徒が自分で考え作り上げる』ということを意識して指導をしていきたい。
	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 部活動への参加・継続を促すことができたか。 部活動に精一杯取り組む生徒を応援し、その魅力ある姿を周知し支えるとともに、活動が停滞しているクラブに対して、活動を働きかけることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 新一年生の部活の加入は、例年と比べて多かったが、途中でやめてしまう生徒も多く、継続させていくことに課題が残る。壮行会は、大会に参加する生徒が気持ちよく激励される形になるよう、役員の子の生徒のみで生徒会室で心を込めて行った。 	<ul style="list-style-type: none"> アルバイトとの兼ね合いで、部活動に加入する、または継続することが難しいケースが多く、生徒会だけでは解決できないと考える。しかし、高校生活ならではの部活動に参加することの素晴らしさを伝え、1人でも多く加入する気持ちを持てるよう努力したい。壮行会に関しては、今後また全校生徒で温かく行うことが出来ることを目標に、様々な活動を全校参加を意識させて指導していきたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立に向けて指導することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 校門での挨拶、昼の立ち番や巡回を行った。 全職員の協力のおかげで、朝の遅刻者や昼休みの外出者は激減している。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の遅刻に関しては、保護者の協力なくして改善は難しい。起床時刻や朝食、弁当の持参など、基本的な生活習慣向上を促すアプローチの継続が必要である。 登校後の生徒の状況は、時間をおかずに家庭に連絡。また、その日のうちに授業出席状況を把握でき、情報を共有できるシステムが必要である。
	社会性・協調性の育成と主体的な行動の促進	<ul style="list-style-type: none"> 校風規律を遵守させることができたか。 通学マナーなどの交通規則を遵守させることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査毎に頭髪指導を行った。 制服の着用の指導に関して課題が多い。 喫煙防止のための下校時巡回を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪指導に関しては、明確な基準と日時を全職員で共有する必要がある。 登下校時の喫煙の問題については巡回指導の強化を図る必要がある。 ゴミを捨てる生徒が多い。清掃活動とともにマナー指導を行う必要がある。
	事前指導・啓発活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 事前防止指導、啓発活動をすることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪の改善・制服着用についてポスターを掲示して呼びかけを行った。 喫煙・ゴミのポイ捨てなどが目立ってきた時期にSHRでの全校放送での呼びかけを行った。 薬物防止・自転車安全・性教育講話などを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 諏訪地区において登下校中の自転車による交通事故が多発しているため、本校においても自転車安全講話等を充実させる必要がある。 スマホ・ネットなどの問題事例もあるので、これらについての講話等の実施・指導の充実を図りたい。 各種講演会での生徒の聞く態度に問題が残る。くり返し指導をしていきたい。
	生徒・保護者・職員間の信頼関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域と連携を図った指導をすることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> PTAの諸会合、学校評議員会、諸会議等で基本的な考え方、近況や課題を伝え、理解と協力を求めた。事例発生時、各担任から迅速な家庭連絡が行われ、指導へ円滑に移すことができた。地域からの苦情では、誠実に速やかに対応することに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校職員は、保護者や地域の方々と積極的に交流を行う。また、保護者や地域の方々に本校教育活動に参加していただく。活動内容や現状をよく知っていただき、協力や助言をお願いする。
	正しい判断力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 盗難、いじめ、威圧、器物損壊、授業妨害を起ささない指導をすることができたか。 喫煙、飲酒などのケアをすることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学当初生徒間でのトラブルが起きたが迅速、適切に指導できた。 喫煙・飲酒はその都度適切に指導を行うことができた。 スマートフォンの普及でSNS上のトラブル、スマホ依存に近い状態など新たな問題が出てきている。事例の指導とともに、携帯電話の講話を行うなど生徒への意識づけも行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識や体への害を認識させるとともに、未成年者喫煙禁止法など保護者の監督意識の向上も促す。また、少年事例に特徴的である共犯という観点から、自浄効果を促すための指導が必要である。また、巡回指導と清掃を徹底する。 スマートフォンについては、継続して講話や使い方の方の指導を行う必要があり、職員もスマートフォンの知識を高めて生徒への指導にあたる。
個のニーズに応じた手厚い指導	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関(関係者)と連携し、アセスメントをおこない、個のニーズに応じた指導と教育相談活動ができたか。また、本人が求めるスキルを充実、提供することができたか。 特別支援教育に向けての校内体制の構築やチーム支援の体制、職員研修ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育支援員及びスクールカウンセラーによる面談については、支援が必要な生徒に対して迅速な対応ができた。特別な支援が必要な生徒については継続的にソーシャルスキルトレーニング(SST)を行った。また、行政機関やSSW、医療との連携を密にし情報交換ができた。4月に新入生に対して学力スクリーニングテストを実施した。 担任・保健室・係によるチーム支援の体制は整備されてきている。 特別支援教育の研修会は2回行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活で不適応を起こしていないが、高校卒業以降に向けて支援が必要な生徒については、支援は不十分である。機会をとらえて支援を行う。 特別支援教育支援員によるSSTについて、個別の支援計画を作成し、目標を明確にしたうえで関係する職員で情報を共有することが大切である。来年度の課題としたい。 4月と6月のスクリーニング面談の結果の有効活用を考える。 本校では個別の支援体制は整備されてきているので、今後は授業や学校生活の中で集団を対象とする特別支援体制の整備を考えていきたい。 	

進路指導	進路実現へ向けての意欲の喚起と実力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望や適性を考慮して、生徒の進路選択に関する意識・自覚を高めることができたか。 生徒の進路希望を把握し、その達成をサポートする適切な指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 職業適性検査・進路希望調査などの結果を活用し、担任・進路係が連携し就職支援アドバイザーの協力を得ながら進路面談を実施し、意識を高めるよう努めた。 生徒の進路希望を把握しつつ適切な時期に進路面談・進路講話を実施することができた。また、コース選択についても将来の進路を意識したコース選択ができていく生徒が多い。 配慮の必要な生徒について、関連機関と連携して進路指導を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年時からの系統的な進路指導の結果として、3年時での進路実現がある。来年度以降も必要な取組は継続して行っていくとともに、より生徒の進路意識の向上と進路実現に結びつく取組について、情報収集と検討を行っていく。 進路活動への取組の遅い生徒や取り組まない生徒については、本人への働きかけとともに保護者との協力や友人などの集団による働きかけも必要である。係として、生徒との信頼関係をつくりながら、進路意識の高い集団づくりにも工夫をしていきたい。
	生徒の多様な進路希望への対応	<ul style="list-style-type: none"> 地元事業所の職場状況、景気の動向などを把握し、就職に役立つ情報を提供し、事業所見学を奨励することができたか。 上級学校卒業後の進路や取得できる資格を考慮し、進学先に関する情報を提供し、積極的に学校説明会・オープンキャンパス等に参加させることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> センター試験にむけて過去問を取り組ませたが、校外模試の実施までには至らなかった。 夏休みを利用して、基礎学力の補習を行い、進路に対する意識を含めての向上につながった。 学年全体での事業所見学や個々の事業所見学により、「見る」「見られる」の関係づくりを通して、また進路係が人事担当者とのやりとりの中で、それぞれの生徒に合った事業所への応募ができた。 学校説明会・オープンキャンパスには積極的に参加させた。志望校がなかなか定まらない生徒には三者懇談や進路相談会への参加を促した。また、県外への進学希望が見られたこともあり、奨学金に関する説明会も行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 志望校の早期決定。そのために2年生の春休みを利用した学校見学などに積極的に参加させた。 面接指導については早めに計画的に実施する。 基礎学力については、1年生や2年生の早い時期から計画的に取り組む必要がある。 昨年度の反省から、今年度は2～3社見学した生徒もいたが、1社だけだった生徒もいる。生徒の様子を聞きながら対応する必要がある。 内定を辞退した生徒がでたため、事業所や勤務条件・待遇についてしっかりと理解させたい。 教職員対象の学校説明会への出席をもっと増やし、そこで得られる情報の提供をすることで、生徒の進路選択に役立てたい。 2年時より奨学金や特待生などの制度について本人・保護者にも理解を求め、希望する進路実現を図りたい。
	キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の見地から進路指導計画や実際の活動を見直し、計画的で、体系化され、より効果的なものに近づけることができたか。またその結果、生徒の進路選択を行う力を育み、伸ばすことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生で進路決定を行うためには1・2年時にどれだけ生徒に進路について深く考える機会を用意できるかにある。工業メッセ見学や就業体験、マナー講座の実施の後、1月から2年生全員の進路面談を行った。具体的な成果はアンケートなどで検証したいと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 労働者に関する権利や社会人として必要となる知識について学ぶ機会を設定したい。 幸福に人生を生きていくために、改めて性教育の充実の必要性を感じている。 生徒が進路について言葉にして話をするには意義があると考え。来年度は1年生の進路面談も検討したい。加えて、職員対象の進路面談についての研修の機会も検討する。

2 学校運営について

地域との連携	地域への広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ホームページや茅野高フォーラム等での情報発信や、中学校での説明会が実施できたか。 ホームページの定期的な更新ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 茅野高フォーラムや学校説明会等でスライドや動画を用いながら、地域や保護者へ教育活動の広報を重ねることができた。 ホームページをこまめに更新し、教育活動の紹介を積極的に行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、地元メディアや地域、中学校へ積極的に情報発信をして、学校の実態や教育活動の効果についての理解を深めてもらう。 ホームページを一層魅力的なものにし、生徒の活動をPRできるようにしていきたい。
	地域の人材、施設の活用	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間や、福祉保育コースなどの特色ある授業への協力要請・外部講師の依頼、また、部活動等への指導要請ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間では、地域の様々な組織の支援と協力のもと、体験型の学習に取り組むことができた。3年生の福祉と保育コースでは、年間を通して毎週金曜日に地域の施設や保育園、特別支援学校等における一日実習を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も地域における校外学習を継続することで、校内ではできない経験を、地域社会に対する理解を深めることを通して、自尊感情や規範意識の向上、キャリア形成につながられるようにしていく必要がある。
	地域への奉仕活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> やすらぎ喫茶、三校清掃、クリーンウォーク等、地域が主催するボランティア活動の他、地域からの協力要請を積極的に受け入れ、参加できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 先に掲げたもの以外に、今年度は御柱の休憩所のお手伝いや、蓼科高原映画祭のボランティアスタッフなど、折々の要請にできるだけ応えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年に限らず、地域からの要請にはできる限り応えてきているが、参加する生徒が限られてしまう傾向があり、特定の生徒に負担が大きくなってしまわないように配慮したい。また、指導する顧問の負担も、過剰にならないようにしていきたい。
校内研修	授業公開を通しての理解	<ul style="list-style-type: none"> 一斉公開授業期間を設定できたか。 教員相互の授業公開期間を設定できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 一斉公開授業を年6回設定し実施した。また、教員同士の公開授業を6月と10月にそれぞれ1週間ずつ実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業について、もっと地域への広報を行うことで、学校に足を運んでもらう数を増やすことが、学校に対する理解につながると考える。
	職員研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 本校の実情に応じた研修を実施できたか。 初任研を実効あるものとしたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育研修、エコマネジメント研修、非違行為防止研修、情報セキュリティ研修を実施した。また、教科研修の複数回実施、県内外の学校視察・授業参観の複数回実施を通して、生徒の探究的な学びを目指す授業に関する研修を行った。 初任研の研究指定校3年目として、メンター制を導入した校内初任研を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、各種研修を来年度も実施していきたい。 生徒の探究的な学びを目指す授業研究と実践を来年度も継続していく必要がある。 今後も充実した校内初任研となるよう、初任研委員会を中心に計画していくことが必要である。